

JR加太駅舎について

西日本旅客鉄道株式会社の方針

本年4月下旬に、西日本旅客鉄道株式会社から「加太駅舎については、老朽化のため既存の駅舎及びトイレを撤去し、簡素な駅舎とする。ただし、自治体が既存駅舎を地域活性化拠点として活用するため公有化する考えがあるのであれば、無償譲渡（土地は西日本旅客鉄道所有）することも可能」と申し出があった。

加太駅舎の現状

西日本旅客鉄道株式会社が管理する加太駅には、駅舎（約102㎡・昭和11年建築）及び別棟のトイレ（15㎡ 男女兼用 小便器2、大便器1）が存在する。ただし、駅舎内の事務室は無人駅のため現在は使用されていない。また、別棟のトイレは、汲み取り式で老朽化も激しく衛生的ではないだけでなく、段差がありバリアフリー対応にもなっていない。

加太駅の1日の乗降者数は平均53人（平成30年度）であるが、そのうち加太地区の中学生19名（令和元年7月現在）が利用しており、地域の中学生にとっては、貴重な通学手段でもある。また、駅前には、加太地区福祉バスの停留所があり、鉄道及びコミュニティバスの結節点として機能している。

さらに、加太地区では、会員が相互に協力し、鉄道遺産を伝承することで地域の魅力を掘り起こし、住みよい魅力あるまちづくりを推進することを目的とし、加太鉄道遺産研究会を設けている。本研究会では、地域住民を中心に、駅舎外壁の加太鉄道遺産群紹介パネルを維持管理し、加太駅を起点・終点とした散策マップを配架するなど西日本旅客鉄道株式会社と連携した活用及び情報発信を行っている。

亀山市の考え方

総合計画における基本施策では、「公共交通網の充実」において、公共交通機関の利便性向上と利用促進を図るとしている。また、「歴史文化の継承・活用」において、地域の歴史を伝える文化財を適切に保存するとともに、その活用にも取り組むとしている。さらに、「まちづくり観光の推進」においても、関係機関と連携しながら、歴史文化遺産を活用した観光促進を図るとしている。

こうした総合計画の基本施策を推進する上で、加太地区の鉄道遺産群の構成要素として駅舎を保存・活用することにより、歴史資産の保護への意識を醸成するとともに、観光資源として来訪者の増加が期待できる。また、駅舎内に展示スペースを設けることにより、鉄道関連資料など加太地区の魅力を情報発信することができる。

さらに、地域としても、現駅舎を地域活性化拠点として活用していきたいとの意向があり、加太地域の活性化の面からも、駅舎及びトイレは必要不可欠である。



今後、加太駅舎の無償譲渡を受け、市有財産として改修・整備を行い、利便性の向上、鉄道利用者数の増加を図り、歴史観光資源としても活用するとともに、地域と連携した地域活性化に取り組んでいく。

【参考】

西日本旅客鉄道株式会社の簡素化のイメージ



加太駅の現状

加太駅舎



トイレ

